

我が署のPR活動について

岩村田・庶務係 中村 享

はじめに

昨年、当署が行ったアンケート調査の結果において、営林署の名前を知らないと答えた人が約半数もいるということがわかった。さらに、若い人々の森林・林業離れが進んできていることが明らかになった。このため当署では、森林・林業についての理解を深めて頂こうと、様々なイベントを企画し実行した。

本年度行った主なイベントは、5月に昨年度に引き続き軽井沢町で「第2回どんぐりがえし」ミズナラの植樹祭を行った。6月には、小諸市で家族参加型のレンゲツツジの植樹祭「第1回水と緑の感謝祭」を行った。7月には、天明3年の浅間山の大噴火を生き延びた天然カラマツの年輪盤の採取を行い、職員の手で加工し展示をした。8月には国有林内で「緑を愛する乗馬会」を行った。11月には、日本最古のカラマツ人工林から採取した材で造ったベンチとテーブルの展示を、JR軽井沢駅で行った。11月は野鳥の森の現地検討会も行った。この中からいくつか紹介したい。

1 第一回『水と緑の感謝祭』

昨年6月2日に行った第一回水と緑の感謝祭を紹介する。地域の若い人達に少しでも、森林の持つ水資源をかん養する働きを理解してもらい、緑化意識を高めってもらうため、小諸市との共催で、家族参加型のレンゲツツジの植樹祭を行った。

「水と緑の感謝祭」というネーミングは水と緑は大変関係が深いこと、国有林が小諸市の約7割の水を供給する水瓶であることをPRするためにつけた。開催日については、多くの方が参加できるように日曜日に行うことにした。植え付け



写-1

箇所は、湯の丸・高峰休養林内の、小諸市で施設整備をしているツツジ園で行うことにした。レンゲツツジの苗木代は、緑化意識を高めてもらうため、すべて一般からの募金によりまかない、苗木は営林署から購入して頂いた。参加者は、1家族1組として植えてもらい、植え付け箇所は、あらかじめササを刈り、番号札を立て参加者が、自分の植えたツツジがいついっても分かるようにし、責任をもって植えてもらうようにし、本年度は1,000本植えた。

当日の参加者は、あいにくの雨降りにもかかわらず50家族200名以上も集った。また新聞やテレビなどの報道関係者も多く取材に訪れた。参加者の意見を聞くと、「家族でよい思い出ができた。貴重な体験をした。次回も参加したい。」などの声があり大変好評だった。

この植樹祭を行ったことにより、一般の方々に、森林は大切な水源であることを理解してもらい、さらに森林を育てる喜びを味わって頂けたと思う。また、マスコミによって広く報道されたことも大きな収穫だった。今後は、少しずつ参加者を増やしていき、総合的に森林・林業をPRしていきたいと考えている。

2 「緑を愛する乗馬会」

7月30日から8月1日にかけて行われた「緑を愛する乗馬会」を紹介する。大自然の中で行う乗馬をとおり、自然の良さと乗馬の楽しさを感じてもらいながら開かれた国有林をPRするため、全国乗馬倶楽部振興協会との共催で行った。

乗馬コースは、当署の事業実行に支障がなく、自然景観が良い所ということから浅間山国有林71林班の作業道跡で行うことにした。

開催日については3日間予定をし、30・31日は乗馬を経験したことのある人が自由に騎乗し、1日は



写-2

乗馬を経験したことのない初心者、小中学生を対象に行うことにした。初心者には、株式会社軽井沢総合乗馬テニス倶楽部のインストラクターが手綱を引き、途中の休息時間に森林教室を行うことにした。

30・31日は、4頭の馬に計約30名が騎乗した。騎乗した人の声を聞いてみると、「今まで馬場でしか乗馬をしたことがなく、こんなに景色の良いところで、思うがままに馬を走らすことができ、大変気持ちが良かった。もっとひんぱんにこの様な催しを行って下さい。」と答えてくれた。

1日は約40名が乗馬を楽しむため訪れた。子供も初めは怖がっていたが次第に興味を示していた。休憩時間を利用した森林教室も子供達は興味を示し静かに聞き入っていた。乗馬などのイベントと組み合わせた森林教室は、子供達の関心を引く良い材料になったようだ。終了後、「とても楽しかった。また馬に乗りたい。」などの声が多く後日、当署に子供達から礼状が届くほどであった。

このイベント終了後、大変好評であったことから株式会社軽井沢総合乗馬テニス倶楽部より申し入れがあり作業道跡を貸すことにした。約2カ月で421,000円の収入を上げた。ある程度上達した人にとって馬場だけでは物足りなく「お金を出してでも自然の中を騎乗したい、浅間山をこんなに間近に見て乗馬のできるところが軽井沢にあったとは知らなかった、是非来年も貸して下さい。」といわれ、国有林のよいPRと少額だが収入確保ができた。平成4年度は、6月から6カ月間貸付する予定にしている。

3 「軽井沢野鳥の森」現地検討会

「軽井沢野鳥の森」は、昭和48年に林野庁・環境庁・長野県によって、軽井沢町長倉山国有林101・102林班に設定されたが、カラマツが成長して過密な林となってしまった。そのため、野鳥の専門家からは、野鳥の種類と個体数が減ってしまった、一般観光客からは、観察路の周りがかん木等で覆われ野鳥の姿が見えないなどの指摘があった。そこで野鳥の住みやすい快適な生活環境を作り、野鳥の種類と個体数を増やすための森林施業を検討し、信州大学助教授中村先生や林業関係者・日本野鳥の会会員などを交え現地で検討会を行い今までにない施業



写-3

を試みることにした。また、この施業をマスコミを通じ一般の人達にも理解してもらい営林署のPRを行うことにした。

現地検討会は、昨年(1997)の11月13日に行った。現地には、あらかじめ森林施業の方法をモデル化した地区を設定し、それらについて説明をし意見を求めることにした。皆、今回の施業の趣旨に賛成をしてくださり細かな要望意見等はあったが了承された。

当日は、マスコミ関係者も多く取材にきました。検討会以降も新聞社やテレビ局が取材に訪れ関心の高さを物語っている。

今回の現地検討会の結果は、新聞テレビなどマスコミに大きく取り上げられたが、今までは主に木材を生産する立場から森林の手入れを行ってきたが、今回は、野鳥が生息・繁殖しやすい環境づくりのため抜き切り等の森林の手入れを行うものであり、これがマスコミの関心を引いたと考えられる。マスコミの関心が高いということは一般の人達の関心も高いと言える。営林署の事業を理解してもらう良い機会となった。

おわりに

このようなPR活動をつうじて一般の方々に森林、林業についての理解を深めて頂くことができた。今後も、様々なイベントを企画・実行し、より多くの人に森林・林業に対する理解を深めて頂けるよう積極的なPR活動をしていき更に、新たなアイデアを模索し取り組んでいきたいと考えている。